七不思儀葛飾譚

蔓初篇上下

へ遠13
2686
10-1

へ13
2686
1
特

七不思議飾物帖

極彩色摺

福田文庫

七不思議と云物越後に元来もそ諏訪に有鹿島に有猶外々ふまんなるべし近辺の
林所にも七ふしだ有と聞ど今現に見るもあり往昔の口碑にのこるべし　柳世

小有と有森羅万象何物か凡慮の思議し得る事あらん悉皆不可思議なり
且他の上に措て自己身ふさわそも一と一そ知覺べき事なりや一尺の物に二寸足せば
一尺一寸よくなる理なり母に胎内を出しより分毫も添ふる物なくて月日に成長し
小き物の大きくなるに何処に縮なき是を延して大きくはなる言をいひ手足を動し
屈伸座臥の自由なる皇衣着て木偶に有と思へど眼なくて此一を万物に
及ぶふしぎを固めて世と覺えども又一と一そふしぎを見聞に熟する物に惟し
けれども惟しき奇しだ物とのべ明礬で書て字の水上に現るも種を
考ればぶ不可思議なり諸所の七不思議も種を考べふしぎ
なり其種の隱れるを見つけて一部の草紙とする其種彦が
拙作の室に源氏の當りしてふしぎの一つと御禮ぞそ
珍しうもねと賣出しる初篇物胡蝶巻に劣らぬ高評
誰で布ふるん

元治二年春正月
柳亭自序
國貞畫圖
南傳馬町
蔦吉版

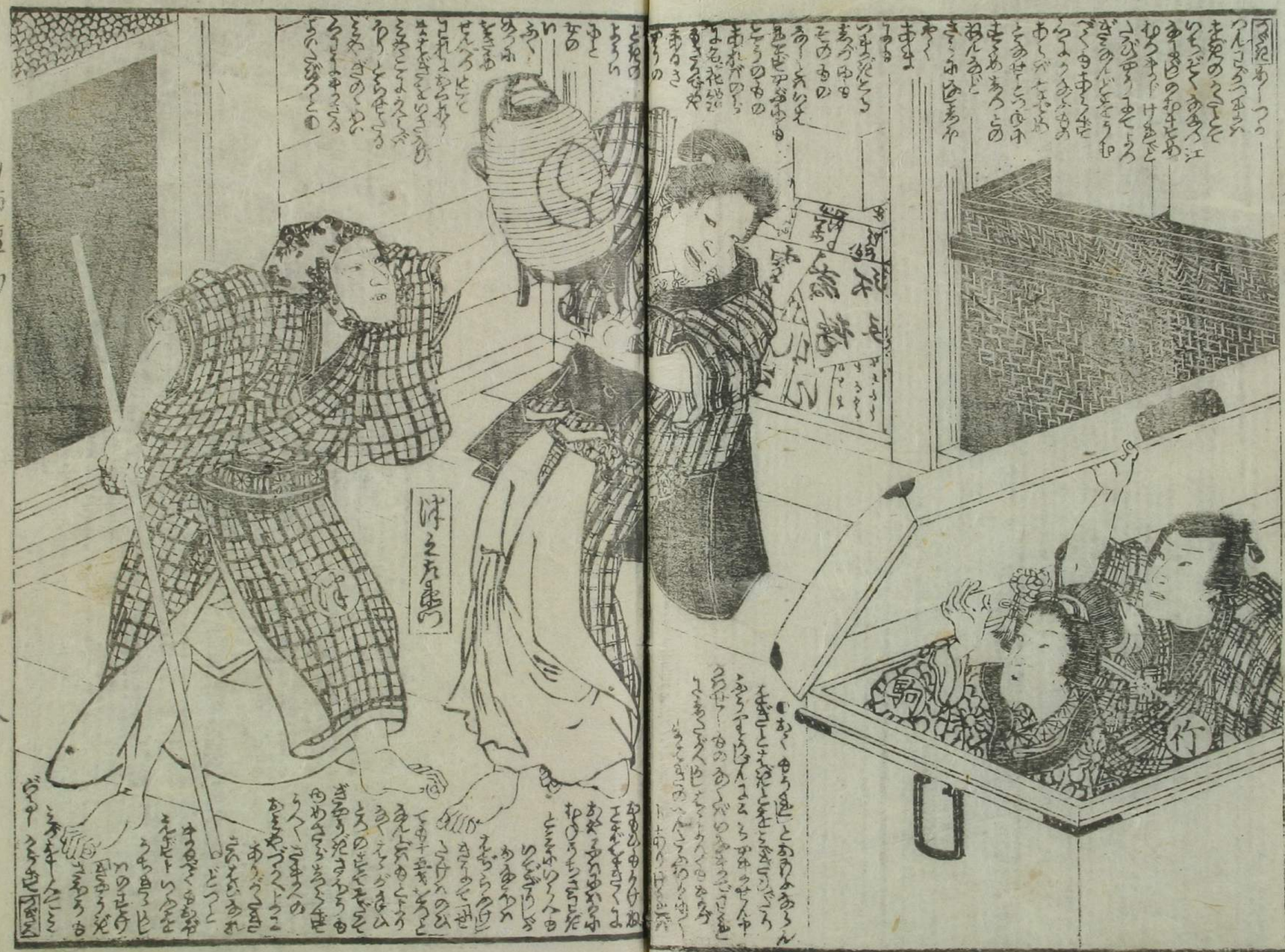
須奈邨妖晦

息長壽左衛門

名物
柳屋

善金論
四
五
菊市郎刀

○以下五丁の画は
出人のものくらべ
画と文は下の巻の有


竹

田舎ゆさんぶんて
ゆさぶる田屋と
ゆさぶれて建る軒屋

種彦作　國貞画

實母散

柳蔭月朝妻

山々亭有人作
歌川国貞画

藪黄鶏八幡不知

山々亭有人作
歌川豊芳画

紅英堂梓
初編下

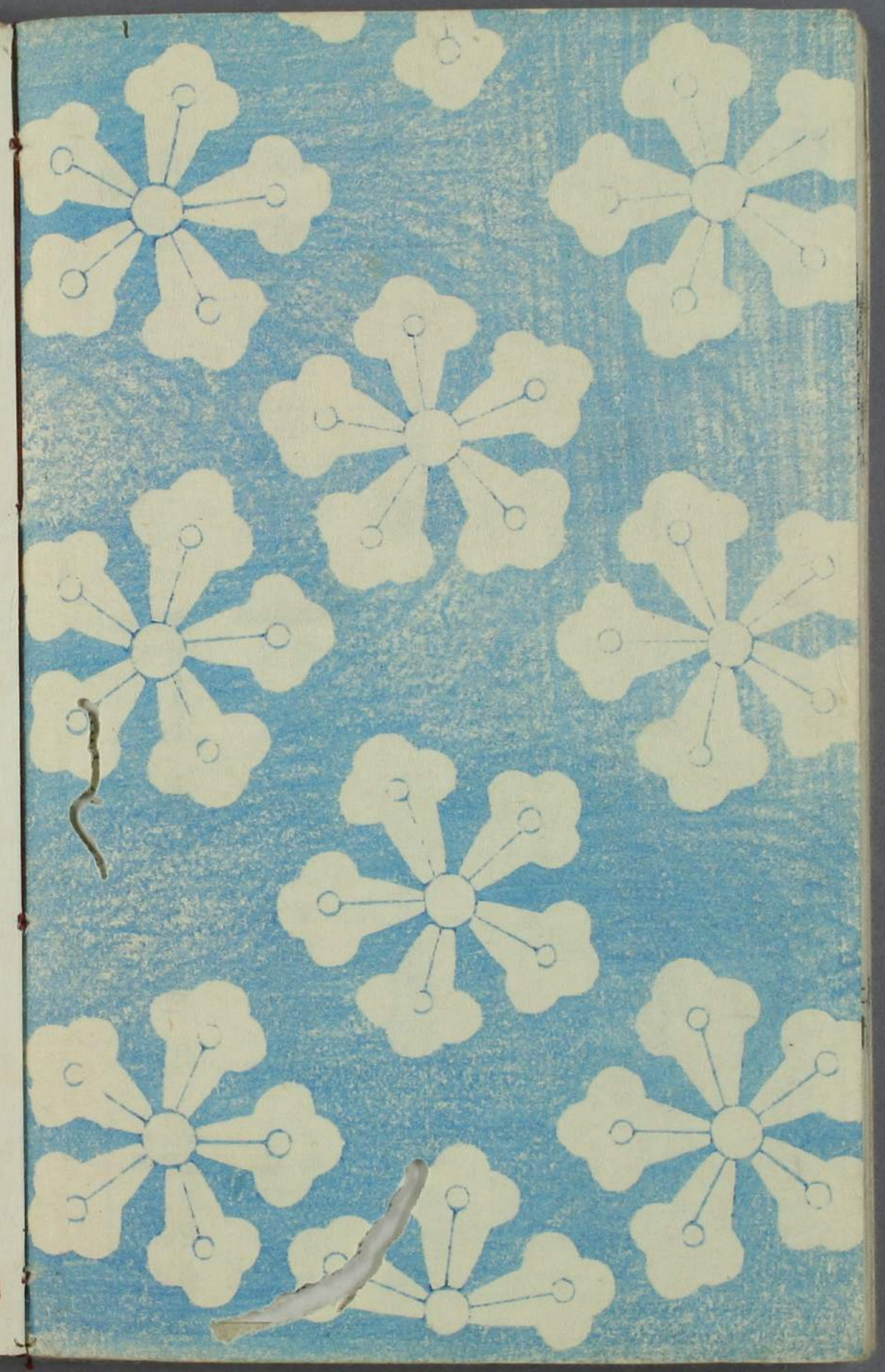
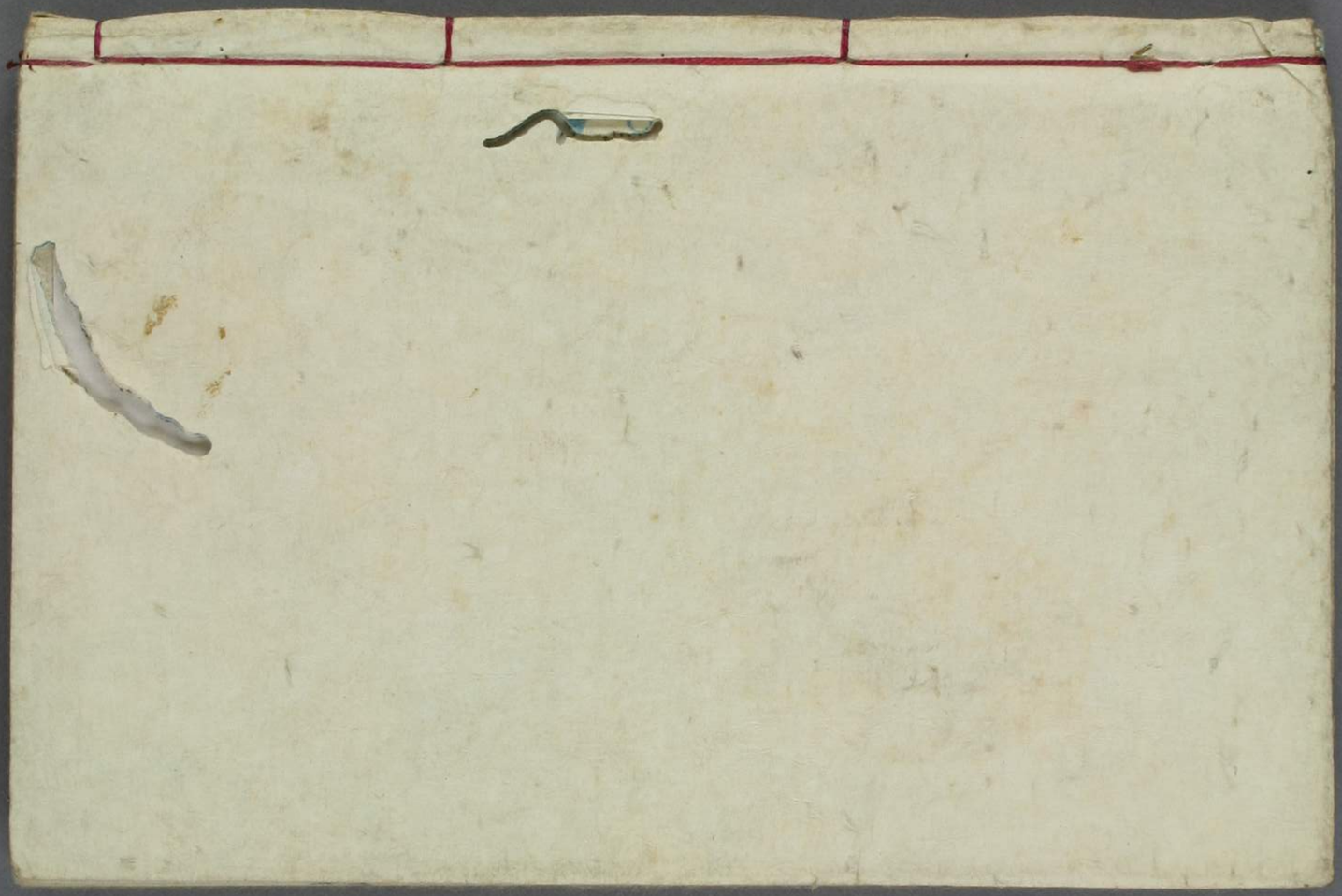
押帙
高美掃
宮川三果

三
高市無刀

竹

片葉の葦

明治四年辛未陽春開板標目

厚化粧書初編　春水作　國貞画
新局九尾傳　十二編　春水作　國貞画
室町源氏胡蝶卷　十編　種彦作　國貞画
筆海四國聞書　十三編　種彦作　國貞画
鼠伺通夜譚　八編　種彦作　國貞画
明鶴雲堂通神福　十六編　種彦作　國貞画
童謡妙東　種彦作　國貞画
花封蓉玉章　十編　種彦作　大尾　國貞画
薄陳如日記　春水作　國貞画
八犬傳犬の双紙　五十四編　柳亭作　國政画
七福神寶飾譚　種彦作　國貞画

南傳馬町通二丁目
萬屋吉藏板